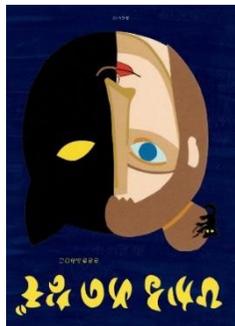


ほとんどのほかにゆらぎは、くらいところ目が光るまうにできています。きょうりゆうが生きていたころ、層間はものかげにかくれてらし、夜に食べものをさがしていたからです。

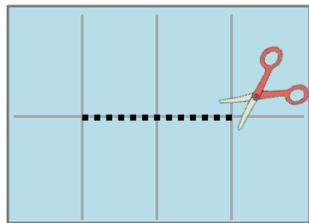
『今、人間の目が光らないの』はどうしてなのでしょうか。

『E』ひかるめのなぞ』 ささきふみこ／著  
みらいパブリッシング



これは金魚のしぐさかかか  
りです。今日は、おなじかか  
りのまなちゃんかみで、か  
ずきくんもようじがあるそ  
うです。こはるは一人で水そう  
のそうじをはじめますが、と  
てもたいへんで、とちゆうで  
かえることにしました。する  
と次の日、金魚のぐあいかわ  
るくなってしまいました。

『K913』わたし、いえた！』  
深山さくら／作 北沢優子／絵  
岩崎書店



紙を8つにおいて、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみたてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館

富山市西町5番1号

電話 076-461-3200

<ホームページもみてね！>



2022年  
12月号



『E』びんにいれてごらん』



デボラ・マルセロ／作  
ながわちひろ／訳  
光村教育図書

ルウェリンは、いろんなものをあつめることがだいすき。友だちのエブリンといっしょに、雨あがりのにじや、広いうみのなみの音をあつめて、びんの中に入れていました。そんなある日、エブリンがとおい町にひっこしてしまいます。

『K913』やまだめいたちのえにつき』



山田美津子／さく  
理論社

えにつきのしゅくだいができましたが、めいは、なにも書くことがありません。せつかくの休みなのに、どこにもでかけないので、たいくつでねむってしまいます。しばらくして、ひるねからおきると、えにつきが書かれていました。いったい、だれが書いたのでしょうか？

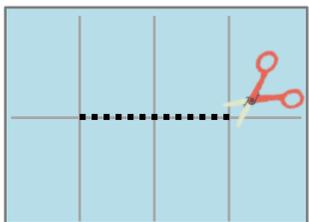
2020年、野口宇宙飛行士が宇宙ステーションから、宇宙食のサバ缶をしようかいしました。このサバ缶は、福井県にある若狭高等学校の生徒たちが作ったのです。若狭高等学校には、「サバ美習」という伝統的な授業があります。この授業で作ったサバ缶を宇宙食として認めてもらうためには、安全基準なと乗りこえなければいけない課題がたくさんありました。

K667 『宇宙食になったサバ缶』  
小坂康之／著 別司芳子／著  
早川世詩男／装画・挿絵 小学館



悠馬は、神社で黒い紙で作られたとかげをひろいました。そのとかげが夜になると本物のようになり、悠馬はこわくようになります。悠馬はクラマイトが通うおりがみ教室をたずね、先生にとかげをあずけることにしました。その数日後、おりがみ教室の前に警察が集まっています。とかげをあずけた先生が、行方不明になったのです。

K913 『黒紙の魔術師と白銀の龍』



紙を8つにおいて、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみだてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館

富山市西町5番1号

電話 076-461-3200



<ホームページもみてね！>

わ く わ く  
本 だ な



2022年  
12月号

4 5 6 年



K913 『やまの動物病院』

ながわちひろ／作・絵 徳間書店

とらまるは、〈まちの動物病院〉で人間のまちの先生に飼われているねこです。夜、まちの先生がねむると、とらまるはねこ用のとびらの横にあるかんばんをひっくり返し、〈やまの動物病院〉として仕事を始めます。しばらくすると、かぜをひいたキツネや、手をけがしたモグラが、とらまるのしんさつを受けるため次々にやってきました。